

外郭団体ミッション遂行評価票

【平成30年度取組結果】

団体名	社会福祉法人 北九州市福祉事業団
-----	------------------

所管課	保健福祉局 総務課
-----	-----------

<p>団体に対するミッション</p> <p>他の民間事業者では取組みが困難な福祉サービスの実施を通じ、本市の福祉サービスの充実に積極的な役割を担う。</p> <p>また、事業団が持つ多様な専門性を活かし、民間の社会福祉法人等の先導的役割を担う、より質の高いサービスを提供する。</p>
--

<p>行財政改革大綱における見直し内容</p> <p>平成22年度までに抜本的な見直しを行い、経営健全化を達成していますが、今後も引き続き、長期的に健全な経営を維持するよう努める。</p>
--

ミッションに基づく中期計画

3～5年後に 目指す状態	<p>① 再整備後の総合療育センターでの専門性を活かした運営等障害児・者の支援の中心的な役割を担う。</p> <p>② 国立保育所、児童館、障害児支援施設の連携等専門性を活かし子育て支援の先導的役割を担う。</p>							
主な成果指標	年度ごとの目標及び実績（太枠は最終目標年度）							
	H28	H29	H30		R1	R2	R3	R4
	実績	実績	目標	実績	目標	目標	目標	目標
総合療育センターの利用者満足度	81.4%	94.3%	80%以上	96.4%	80%以上	85%以上	85%以上	85%以上
介護実習・普及センターの利用者満足度	87.0%	99.0%	80%以上	99.0%	80%以上	80%以上	80%以上	80%以上
児童館の利用者数	658,676人	627,127人	617,000人以上	637,106人	617,000人以上	617,000人以上	617,000人以上	617,000人以上
国保特定健診受診者のうち特定保健指導非対象で保健指導が必要な者（区役所対応分）に対する指導割合	48.2%	49.4%	40%以上	59.8%	40%以上	40%以上	40%以上	40%以上

ミッションの遂行状況の評価（平成30年度）

<p>団体における評価</p> <p>専門的ノウハウを活かしたサービス提供のなか、総合療育センターや介護実習・普及センターの利用者満足度、児童館の利用者数等の主な成果指標について、全て目標を達成しており、本市の福祉の向上に貢献できた。</p> <p>また、新総合療育センターの開所により、診療体制や病床の増設等の機能充実を図り、より質の高い療育サービスの提供が可能となった。しかし、移転に伴う休診等により、外来患者数等は前年度より減少した。</p>	<p>市の評価</p> <p>総合療育センターについては、既存事業に加えて移転があったが、市や関係機関との連絡・調整を密に行うなどの対応により、大きなトラブルはなく開所に至った。その結果が利用者満足度の目標達成に表れている。</p> <p>他の主な成果指標についても目標を達成しており、民間事業者では取組みが困難な福祉サービスの実施・充実が実施できている。</p>
<p>今後の課題及び見直し内容（案）</p> <p>①総合療育センターの経営の在り方 病床の増設等に伴う看護師等の人件費の増加が、病床が全稼働していないことから収支を圧迫している。 今後、病院経営に実績のある経営コンサルの導入を検討するなど一層の経営改善を図っていく。</p> <p>②保育士をはじめとした人材確保 保育士の人材確保が困難だったため、定員までの受入ができない状況が続いた。 今後、団体の裁量に基づく、固有職員の総枠内での柔軟な採用、学校訪問、就職説明会等への参加を検討している。</p>	<p>団体への改善指導内容（案）</p> <p>引き続き、社会状況の変化に伴う社会福祉法人改革などの的確に対応するとともに、不祥事防止、固有職員の人材確保・育成に努めるように指導を行う。</p> <p>また、総合療育センターの施設規模が拡大した一方で、医師・看護師をはじめとする固有職員の確保が課題となっている。収支改善を図るためにも、施設の機能を最大限に発揮できる管理運営体制を整えるよう検討を今後も行っていく。</p>

その他～「行財政改革大綱における見直し内容」の取組み状況

見直しの分類	－
<p>長期的な健全経営を維持できるよう、事業団の経営計画に基づき、本部機能強化等の人材育成や、障害施設・保育所等の施設再整備に取り組んだ。</p>	